



広報・PR拡充事業

トリエンナーレPR隊

プレス資料

主催:愛知県(あいちトリエンナーレ実行委員会)
企画・運営:NHKプラネット中部支社

トリエンナーレPR隊とは？

「あいちトリエンナーレ2010」の広報、PR拡充のため、緊急雇用による失業者ら（一般市民）によりPRパフォーマンス隊を緊急結成！ それが、トリエンナーレPR隊。名古屋市内、愛知県内だけでなく、東京、大阪、全国を駆け巡ります！！

① 3つの異なるイベントを統一イメージで複合的に実施。

- **コミュニケーションパフォーマンス** … チラシ等の配布によるPR
- **キャラバンパフォーマンス** … キャラバン隊によるイベント展開PR
- **アーティストパフォーマンス** … アーティスト企画によるパフォーマンスPR

⇒ 3つのイベントを複合的に実施することによって、より効果的な広報・PR活動を行います。

② 一般市民がアートの楽しさに触れる機会の提供。

専門家の指導の下でパフォーマンスを練習して、トリエンナーレに相応しいレベルの作品を作りあげます。本事業の目的を、トリエンナーレ開催告知の為のPR活動に留めるのではなく、彼らパフォーマンス活動を一般市民がアートの楽しさに触れる機会を提供します。

その為に、当事業全体を監修する**アートチーム**を設置。

3つのイベントの企画演出を担当、パフォーマーの教育指導やPRツールの制作を監修します。

このアートチームが、当事業全体のイメージを統一し、トリエンナーレらしさを演出します。

アートチームとの協働は、トリエンナーレ本体事業に参加する機会の少ない**地元アーティストの参加**としても大きな意義があります。

アートチームの編成 （プロフィール後述）

アートプロデューサー	: 齋藤敏明
アーティストパフォーマンス演出	: 木村繁
パフォーマー演技指導	: 兵頭禎晃 / プレジャー企画
オブジェ・小道具制作	: 福永朝子 / 人形劇団むすび座 / 安藤伸
衣装デザイン制作	: 木場絵理香 / 大池かおり
音楽作曲・制作	: 小高直樹 / 押山晶子 / 渡邊晶子
振り付け	: ほりみか
パフォーマンス参加・指導	: OPT

③ 新規雇用者を一般市民と捉え、本事業を一般市民のアートへの参加。

本事業の目的のひとつとして緊急雇用創出がありますが、新規雇用者を一般市民と捉え、本事業を一般市民のアートへの参加と位置づけ、現代アートとしての広報PR表現として、一般市民とのアートパフォーマンスの展開を行います。

また、新規雇用者には、自らがトリエンナーレに参加するんだという意識をもって臨んでいただきます。

ハレの場での発表や、アートの専門家の指導のもとで行う練習は、新規雇用者にとっても次へのステップとして、大きなきっかけになると考えます。

「あいちトリエンナーレ2010」の認知度のアップ、PR + 失業者緊急雇用対策事業

現代における現代アートとしての広報PR表現活動を一般市民とともに展開

話題を集める、トリエンナーレらしいPRを実施

トリエンナーレPR隊とは？

展開のねらい

- ・アートによるアートのためのPR …… アートへの興味を高める
- ・アートコミュニケーション …… アートを契機にコミュニケーションを図る
- ・都市の祝祭 …… お祭り、まちなかへアートをばらまく
- ・日常の逆転 …… 虚構と現実、演劇的仕掛け、日常の中のアート、出会いというアート
- ・社会への批判性 …… 社会への影響、効果をねらう さまざまな思いを織り込む
- ・人材育成 …… アートに携わる人材を育てる その契機となる

⇒ こうした方向性で、3つの異なるイベントを統一したイメージのもとに実施、展開。

- ◆目立つ、目を引く、魅力ある ⇒ 大きさ、カラフルさ、奇異さ、楽しさ、珍しさ、不思議さ…
- ◆ふれあい、参加性、双方向 ⇒ PR、アートを契機にふれあう、簡単なアートへの参加、パフォーマンスからワークショップへ
- ◆あいちトリエンナーレをPR ⇒ ロゴなど露出を多く、直接的に展開

<イメージストーリー>

⇒ 軸となるイメージストーリーを元に、3つのパフォーマンスイベントを構成演出。

迷えるモタンヒトビート(ケンタイジン)が世界の闇を切り開く鍵=正しい矢印を求めて、世界を喘ぎ彷徨っている
 モタンヒトビートはさまざまな形でそれを探し求め、行動し、葛藤し、喜怒哀楽し、うごめく
 モタンヒトビートはアートなココロをもっている
 ココロがアートなだけに迷えるのかもしれない
 モタンヒトビートは、アートなココロで、世間と接し、ふれあい、コミュニケーションし、アートな母のぬくもりに触れ、正しき矢印を手に入れるのだ
 正しき矢印により、世界の闇は切り裂かれ、世界はアートな光に抱かれる
 その過程は、アートの伝道という様相を呈していたりもする
 モタンヒトビートはアートのテントウシだったりもする

●コミュニケーションパフォーマンス

モタンヒトビートが、正しき矢印を求める旅、修行、鍛練

⇒PRチラシ配布をアートに行うまた、キャラバンを行う際には同時にチラシ配布を実施したり、パフォーマンスをしながら配布をするなどのPRを実施

●キャラバンパフォーマンス

モタンヒトビートが、さまざまな行動を通じ、正しき矢印を求める

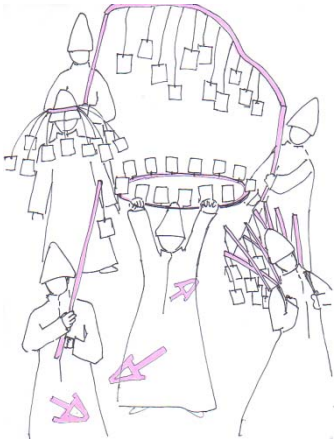
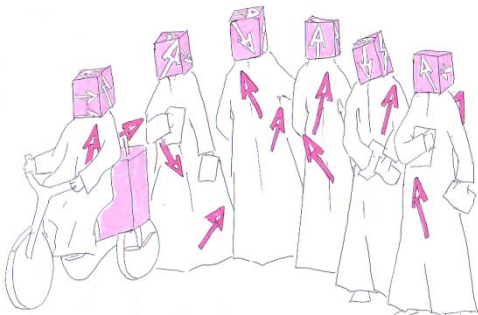

⇒MCと参加性のあるイベントパフォーマンスでPRを実施

●アーティストパフォーマンス


モタンヒトビートが自らの物語を象徴するような物語をパフォーマンスする

⇒現代美術の祭典であるトリエンナーレ、それを反映したようなパフォーマンスでPRを実施

コミュニケーションパフォーマンス

<p>実施目的</p>	<p>①. 通勤時の駅周辺や、イベント会場、大型スーパーなど多くの人が集まっているところに出かけて行って、パフォーマンスを行いながらPRツールを配布し広報・PR活動を行う。 ②. 集団パフォーマンスをまちなかで繰返し実施し、開催機運を煽るとともに祝祭感を創出する。</p>
<p>実施概要</p>	<p>構成演出 / 齋藤敏明 演技指導 / プレジャー企画</p> <p>パフォーマンス① あいちトリエンナーレ緊急雇用PRチラシくばり隊 (PR ヒトビート)</p> <p>アーティストックな衣装で、パフォーマンスを交えてコミュニケーションを図りながらPRツールを配布しPRする。</p> <p>チラシくばり隊=たんざく、つりざお、フラフープ、パン食い競走状態のチラシを身にまといさまざまな方法でコミュニケーションを図りながら、チラシを配布する。 チラシを配る使命があり、配りたいのだが、簡単に手くばりするのが何故かできなく、とにかくコミュニケーションをとりたいがる人たち。</p>  <p>パフォーマンス② あいちトリエンナーレ緊急雇用矢印さしめし隊 (矢印 ヒトビート)</p> <p>ロゴマークの矢印の箱をかぶった人たちが、集団パフォーマンスをまちなかで繰返ししながら、PRチラシを配る。</p> <p>矢印さしめし隊=これからの人生に不安を抱きながらも、その行き先を指し示したいと願い、矢印を大量に抱え込んで(ロゴ矢印箱とチラシ)、チラシを配布する。</p> <p>配布枚数をより多くすることをモットーとして展開。</p>   <p>チーム編成 パフォーマー 6名、ディレクター 1名 (3チームとも稼働が可能なように練習)</p>
<p>実施回数</p>	<p>① 名古屋市内・・・217回 県内・・・56回 県外／東京・横浜・大阪・金沢・・・各3回、岐阜・三重・静岡・・・各6回ほか 合計306回 ② 名古屋市内・・・189回 県内・・・28回 合計217回</p>

キャラバンパフォーマンス

実施目的	MCを入れてのPRイベントとしてのパフォーマンス。 参加型のワークショップなども織り込み、観客に楽しんでいただきながら、トリエンナーレ2010の開催概要を的確に広報・PRする
実施概要	<p>構成演出／齋藤敏明 演技指導／プレジャー企画</p> <p>PRオブジェ(のぼりや旗などではなくアート作品、パフォーマーの出控えとしてのスペースを擁したテントのような、あるいは移動PA装置を兼用したような装置)を、キャッチアイ(注目を集めるための装置)として製作し、そのメインPR装置と、MC(あらかじめ録音したコメント)の進行、パフォーマーによるパフォーマンス、観客も巻き込み、参加を求めたワークショップ的な展開によって進行する、開催概要を的確に伝えるためのPRイベントステージパフォーマンスを行う。まちなかに、突然、異質な人たちが現れ、異質な空間が出来上がり、虚構のような本当のPRイベントが展開する</p>
	チーム編成 パフォーマー 6名(MC 1名含み)、ディレクター 1名
実施方法	<p>30分程度の構成 (目的に応じて時間を調整できるプログラムとする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黙々とパフォーマーたちがステージエリアを作り出す、陣地をとり、PRオブジェを設置。 アートなのぼりを立てる～音楽をかける ・音楽に重なり、PRアナウンス(観客呼び込み)が流れる ・パフォーマンスを始める MCパフォーマー(背高)によるPRパフォーマンス (約3分) 録音コメントと演技、始まりコール (声やしゃべりを特徴的に) PRイベントの目的、何をやるかなど、ストーリー設定のもと、展開 ・観客とのふれあい、参加性のあるワークショップ的なパフォーマンス (約10分、2～3種) PRオブジェから出てくるパフォーマーたち ①私に絵を描いて、私の爪にネイルアートして、など、アートに参加してもらおう ②「芸術はバクハツだ～～！」体操 リズム遊びと体操(簡単なふり)を一緒に行う ・MCパフォーマー(背高)によるPRパフォーマンス(約3分) 録音コメントと演技 トリエンナーレ2010の開催概要を的確に伝える 開催期間や場所、出展アーティストや 代表的な作品を紹介する内容とする ・エンディング エンディング音楽とダンス 
実施回数	<p>名古屋市内・・・10回 県内・・・10回 県外／横浜・大阪・金沢・・・各1回、東京・岐阜・三重・静岡・・・各2回 合計31回 1回あたり 2～3ステージ実施</p>

アーティストパフォーマンス

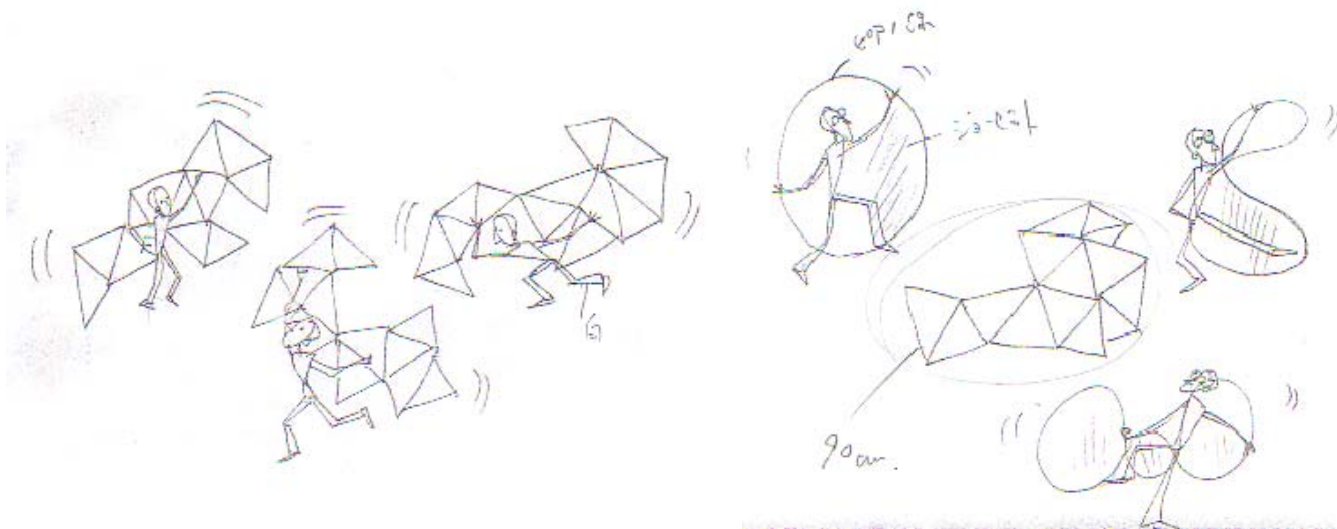
実施目的	一般市民がアートを楽しむにに触れる機会を提供し、アートへの関心を喚起すると同時に、トリエンナーレ2010の開催機運を高める。
実施概要	構成演出／木村繁、オブジェ制作／福永朝子、パフォーマンス協力／OPT アートチームの企画演出、練習の指導により、トリエンナーレ2010に相応しいアート作品を作り上げパフォーマンスを実施する。 レベルを追求するのではなく、アートの楽しさを伝える内容とする。
	チームの編成 パフォーマー 12名、(現役アーティスト含む)、ディレクター 2名
実施方法	30分程度の構成 5メートル～9メートル四方のエリア 高さ4メートル以上 作品① (約15分) 『SANAGI』 作品② (約15分) 『大地のカーニバル』
実施回数	名古屋市内・・・5回 県内・・・5回 県外／横浜・大阪・金沢・・・各1回、東京、岐阜・三重・静岡・・・各2回 合計21回 1回あたり 2～3ステージ実施

作品① 『SANAGI』 内容

□ねらい オブジェクトパフォーマンスシアターが開発した動く現代美術。街に現れた正体不明のさなぎから巨大な生命が誕生するまでの命の賛歌を、オブジェと人(演者)で構成します。

□構成 街に正体不明のさなぎ(乳白色の物体)が発見される。そこへバクテリアの群れ(黒いごみ袋軍団)が行進してくる。奇妙で可愛いバクテリアダンスが展開され、互いに、空気筒(傘袋のような透明ビニール袋)で通信ごっこ、やがてコミュニケーションが不能になり、バクテリア戦争になっていく。荒廃した街に、魂(赤い球体)が浮遊してくるとバクテリアは消えていく。魂がさなぎを誘うと、さなぎに呼吸が生まれ、孵化して、巨大な生命(花や鳥や獣)が誕生し、ダイナミックに躍動する。

□イメージ画



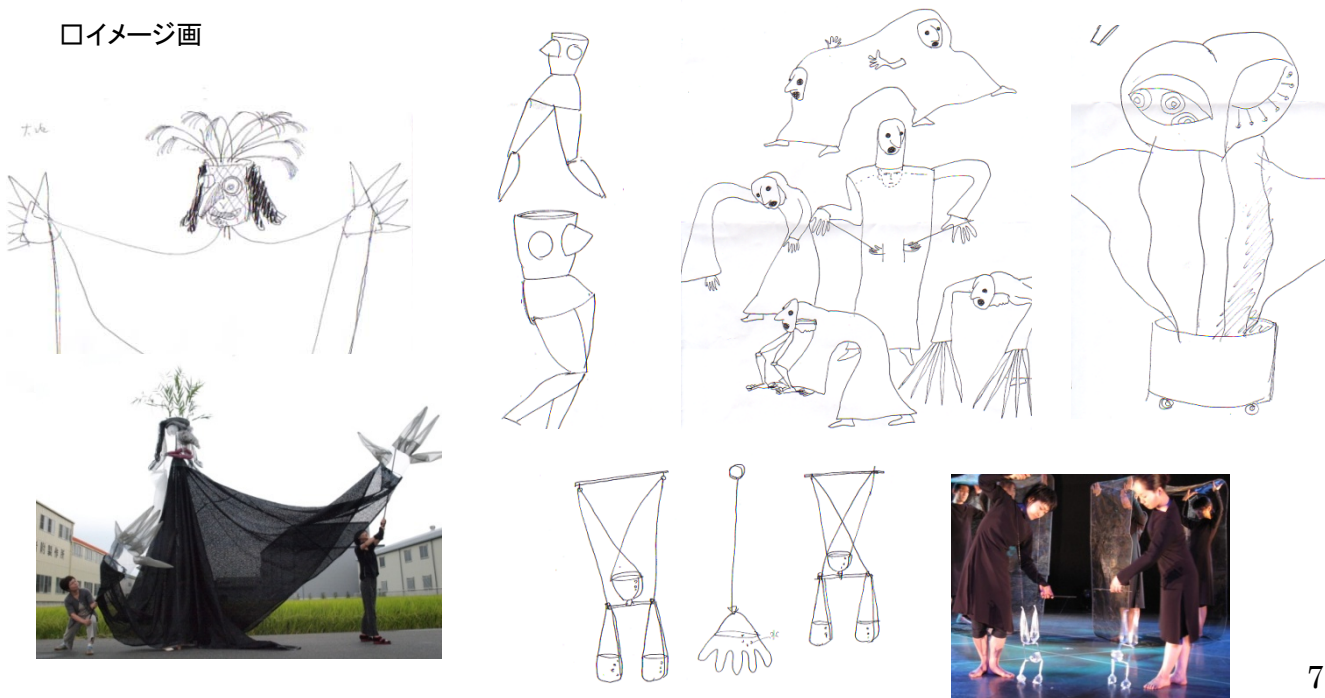
アーティストパフォーマンス

実施目的	一般市民がアートを楽しむにに触れる機会を提供し、アートへの関心を喚起すると同時に、トリエンナーレ2010の開催機運を高める。
実施概要	構成演出／木村繁、オブジェ制作／福永朝子、パフォーマンス協力／OPT アートチームの企画演出、練習の指導により、 トリエンナーレ2010 に相応しいアート作品 を作り上げパフォーマンスを実施する。 レベルを追求するのではなく、 アートの楽しさを伝える内容 とする。
	チームの編成 パフォーマー 12名、(現役アーティスト含む)、ディレクター 2名
実施方法	30分程度の構成 5～9メートル四方のエリア、高さ4メートル以上 作品① (約15分) 『SANAGI』 作品② (約15分) 『大地のカーニバル』
実施回数	名古屋市内・・・5回 県内・・・5回 県外／横浜・大阪・金沢・・・各1回、東京、岐阜・三重・静岡・・・各2回 合計21回 1回あたり 2～3ステージ実施

作品② 『大地のカーニバル』 内容

- ねらい オブジェクトパフォーマンスシアターが開発した動く現代美術。情熱的な音楽にのって、街角や広場に、巨大人形や仮面や変形人形など、この世にあらざる人形達が登場する聖と俗のカーニバル。
- 構成 魔女人形に先導されて仮面たちが街を闊歩している。指長ニンゲン、顔と足だけのニンゲン、手長ニンゲン、カラダのつながった合体ニンゲン、服を共有するニンゲンたち、踊る骸骨など。やがて、女神が浮遊してくると大地は歓喜して孕み、巨大人形(エア使用)がムクムクと起き上がってくる。巨大人形の中から、「時の戦車」に乗った水人形が生れ出る。

□イメージ画



アートチーム プロフィール

アートプロデューサー : 齋藤敏明

1960年 福井県生まれ。名古屋大学工学部建築学科中退。大学内の劇団にて演劇を始める。その後、劇団を結成し、主に劇作、演出を手がけた後、イベント、演劇などの制作会社を設立。解消後は、フリーの演出家として、名古屋を中心に活躍。数々のプロデュース公演、他劇団の公演、市民参加劇、ミュージカル、オペラ、コンサート、イベントステージなど幅広い分野にわたって、構成、演出を数多く手がける。最近では、分野の異なるアーティストによるジョイントステージやコンサートなどの構成、演出も手がける。2006年より、雅楽師・東儀秀樹のコンサートツアーの構成演出を担当。東儀や古澤巖、塩谷哲、橋爪淳らによる『光源氏・さかさまに行かぬ年月よ〜美しき男たちの源氏音かたり〜』など好評を得る。演出家としての活動のほか、1989年〜92年のNAGOYA都市演劇遊戯祭、98年〜2002年の名古屋まちなな演劇祭に実行委員会事務局長として携わり、企画運営に携わる。名古屋市文化振興事業団主催のアートプロデュース養成講座講師なども担当。日本演出者協会会員。

パフォーマンス演出 : 木村繁

演出家、可変物体設計家。劇団前進座、東宝現代劇戯曲科で、歌舞伎に触れ、人形劇団むすび座に所属。最近はおブジェクトパフォーマンスシアター(OPT)として、巨大包装紙の60分作品『裸海』(利賀演劇フェスティバル招聘)、水人形を操る『七月王』(名古屋市民芸術祭審査員特別賞受賞)、仕掛け箆笥の『水の宿』(パティオ池鯉鮒+銀座博品館劇場)などの作品を発表、動く現代美術と批評される。OPTの設立に関わり、常任演出家を務める。2009年開催した「演劇CAMP in 中津川」の仕掛け人の一人であり、実行委員長。文化庁舞台芸術創作奨励賞佳作をはじめ、受賞多数。日本演出者協会理事。

オブジェ・小道具制作 : 福永朝子

大阪府生まれ。京都市立芸術大学日本画卒。人形劇団むすび座所属。ドラマの中で人形の果たす多様な可能性を探り続ける。また近年オブジェクトパフォーマンスシアター(OPT)の美術監督として動く現代美術を多数開発する。人形劇「わわしい女」「寒い母」「ヒルコ伝」等の美術、児童向け人形劇の美術・台本・演出など多数。海外ではモスクワユースシアター(ロシア)の「羽衣」「和藤内」の人形製作、話題作として「照手と小栗」の餓鬼阿弥人形などがある。全国児童青少年演劇協議会奨励賞受賞、日本舞台美術家協会会員、高田短期大学非常勤講師。

衣装デザイン制作 : 木場絵理香

1986年金城学院大学短期大学部被服科卒業。88年名古屋モード学院中退。自身が所属する劇団きまぐれ公演の衣装デザイン制作をはじめとして、名古屋を拠点とし、多数の演劇、オペラ、ミュージカル、イベント等の衣装デザイン制作を行う。主な作品として、劇座公演「恋はぬかるみかんちがい」、仮面によるギリシャ悲劇「オイディプス王」、名古屋宵まつり市民ミュージカル「宗春・夢芝居」、うた座オペラ公演「SMILE」、穂積町民ミュージカル「戦え！へーえもん」、平成12年名古屋芸術奨励賞受賞記念公演「ヒルコ伝」など。最近では、オペラシアターこんにゃく座オペラ公演、鄭義信氏脚本演出作品、トム・プロジェクトプロデュース公演など、東京での衣装デザイン制作も担っている。

作曲プロデュース : 小高直樹

愛知県立芸術大学作曲科卒業。クラシックからポピュラーまで幅広くこなす作曲、編曲家。ゲーム音楽においては国内外に40以上の数多くの作品がある。近年はコンピューターを用いた楽曲制作のほか、古典的なアコースティックな手法による制作活動を展開。東儀秀樹、川井郁子、大黒摩季、ウィーンフィル、トゥールーズ室内、N響、名古屋フィルなど数多くの音楽家やオーケストラにアレンジ作品を提供している。大同大学情報学部メディアデザイン教授、名古屋音楽大学非常勤講師。

振り付け : ほりみか

演出家、振付家として各地の市民ミュージカルや劇団、合唱などの演出や振り付けを手掛けている。演出・振り付けしたミュージカル「ムクバクとチチャねこ」は平成14年度東京都優秀児童演劇選定奨励賞を受賞し、現在も全国巡演中。3歳より奥田敏子にモダンダンスを師事。以後、クラシックバレエ、タップ、ステージダンス、ジャズ、新体操、器械体操などを学ぶ。20歳頃より宮本亜門や鈴木完一郎などの演出のミュージカルや演劇に多数出演。平成3年から12年までは総合劇団俳優館に所属し、学校公演、親子劇場などで全国を巡回。日本演出者協会会員。愛知文教女子短大非常勤講師、専門学校名古屋ビジュアルアーツ講師、劇団ひまわり講師。Mカンパニー主催。

アートチーム プロフィール

小道具制作 : 安藤伸

1986年 愛知県立芸術大学美術学部彫刻科卒業。1985年筑波万博ブレインハウス講談社展示オブジェ製作。1989年～1993年 店舗設計施工会社に勤務。揖斐川町商店街活性化事業、輪島商店街活性化事業(商圈調査及び施設提案)。1999年、ライブマーケット準グランプリ受賞。2000年、ナディアパークエキゾーストサウンドプロジェクト。2000年、音のワークショップ講師、音風景フェスタINメルヘンの里新庄(岡山県真庭郡新庄村主催)。2005年、愛地球博ソルバンバン隊衣装製作監修、同自転車タクシー(長野県須坂商工会より依頼)製作監修。2006年、とこなめ招き猫通り巨大招き猫オブジェ製作監修(常滑市商工会議所)。2006年、静岡県伊豆市山手スピチュアルホテルエントランスゲート製作監修。2008年、日本工業大学LCセンターLong Chair製作監修。2009年、一尾直樹監督映画「心中天使」美術監督。

作曲 : 押山晶子

滋賀県出身。名古屋音楽大学器楽科ピアノ科卒業。大学在学中より作曲と編曲を学び、コンピューター、シンセサイザーを用いた音楽制作を行う。「作曲家であるピアニスト」としてポピュラーからクラシックまで幅広いジャンルをこなす。繊細で色彩感あふれる温かみのあるピアノ作品が特色。主な作品。ライオンズクラブ50周年記念大会オープニングテーマ曲作曲、中京テレビ「ラブリーパブリー」テーマソング作曲、「たかべしげこが語る朗読美術館シリーズ/ジョージアオキーフ」作曲・ピアノ演奏、またKANAMIのP2ソフト「カラオケレボリューション」の制作スタッフとして参加。

作曲 : 渡邊晶子

名古屋音楽大学音楽学部作曲学科卒業。岐阜県内の中学校、高校の講師を経て、現在、大同大学情報学部情報デザイン学科非常勤講師を務める。また、名古屋市内のチャペルにてオルガニストを務める。H19美濃市主催の創作音楽劇「四つ葉のこうぞ」の編曲を担当し、電子オルガン演奏などを務める。H20名古屋市文化振興事業団主催「みんなのリーディング・空のまにまに」のキーボード演奏を務める。 など

演技指導 : プレジャー企画

通称「プレB」。94年結成。2008年現在、メンバー45名。日本では珍しいクラウンのみのパフォーマンス集団。近年では、2005年愛・地球博での「185パフォーマンスサーキット」や瀬戸会場での世界中約200人のクラウン達を集めての「ワールドクラウンフェスティバル」の開催などが記憶に新しい。国内だけでなく、国立モンゴルサーカス出演、マイムフェスティバル出演、毎年アメリカで行われるクラウンキャンプ参加等、海外での活動や海外アーティストとの交流なども多い。2006年にはNPO法人日本ホスピタルクラウン協会を立ち上げ、病院での活動等にも力を入れている。



演技指導 : オブジェクトパフォーマンスシアター=オプト

Object Performance Theater = OPT

役者、ダンサー、歌手などの人間の身体、言語、歌唱などを基本とし、舞台表現に対して、「オブジェクト」すなわち「モノ」が持っている力を能動的に関与させ、そのオブジェクトが有しているエネルギーそのものを回復し、モノに運動を与えて表現する「Object Performance(オブジェクト パフォーマンス)」という新しい舞台表現がある。このオブジェクトパフォーマンスの可能性を求めると、愛知人形劇センター主催で、1998年より「オブジェクトパフォーマンスカレッジ」が毎年開催され、7年間で60名以上が卒業。演出家・木村繁と人形作家・福永朝子の指導のもとに、このカレッジの卒業生有志により「オブジェクトパフォーマンスシアター(OPT=オプト)」を1999年に立ち上げ、新しい表現活動に挑戦し、今に至る。

